東海道中徐栗毛八編 下

へ13
4302
18

へ13
4302
18

湯沢幸吉郎先生寄贈図書

20529
<2000-254>

ん。さそえて拾入も有べし。（下略）

そろくまでそろふろ。

油屋会所（あぶらやかいしょ）にて旅人の追（おい）くる記（しる）して宿（とま）り札（ふだ）を出すべし。

（下略）

後日（ごにち）にて宝（たから）を調（しら）べ。其年めうる迄（まで）。

咄（はなし）の種（たね）書（かき）留（とめ）川（がわ）や。

ゆくまふ。新（あら）たの座敷（ざしき）の客（きゃく）所（どころ）

# 道中膝栗毛八編　下巻



かくてみくさの新町のおそばの面用
をしあらしも。なをさらず。日ぐらし
ものつゞき。盆前と申さしへの
忙がしの町の状。ひけてほのく
あをやぎ。ちやうちんさげて。
女をあてまう。今日の祝儀
で。何ぢ屋のおくさまは料理
ぞろ〳〵ふるまくサアイ酒ひきん
大つゝ持てまゐれ。ハテ〳〵ぜんまうもぢ
いやうぶ。〳〵。モシちく。おとのんさ
の一の富まあくの事さ。金子
の外おとゝにちきうまをセト
ちやへおとそうおあがり。コレハ〳〵ごせわ
ま人さまそうさまで。道中ごくろう
おつとつまさんアとろちやのそう
ま参よ　トおの女ぞうりのさ〳〵きん
人こゝろをそそ兄まいをはやまうきうおかそをけ出き

酒上
登呂里

久てゐる〔きて〕おのくごめて〔ぎよめ〕
〔ぎよめ〕
神〔きん〕
神〔きん〕殿の名代でござります
めでとんとでござりまする〔ます〕
やまき〔ま〕よ〔ハイ〕〔そこ中〕
社〔しやごとう〕
行〔ぎやう〕〔そこ〕
お方〔かた〕
〔きん〕
〔ぎよめ〕
〔ぎやう〕
さそうなさられてもよう〔そこ中〕
〔ぬが〕
〔まご〕
まもと。今〔こん〕
おかりやうござりまを〔ハイ〕〔こん中〕
ござりまをとりいる。
ちやうまを〔ハイ〕〔そこ中〕
まりてもとにやまをそんでよござりまをとりいる。
〔よろこび〕
〔そこ中〕
〔ハイ〕〔こん中〕
〔ざ〕
〔そこ中〕
〔よろこび〕
〔ぎやう〕
〔ぬが〕
〔そう〕
〔そこ〕
〔さいえん〕
〔そう〕
〔そこ〕
〔ぬが〕
〔かた〕
〔き〕
〔ぎやう〕
〔ぬが〕
〔ぎよめ〕
〔ぎよう〕

「きこゆ」かうそのお札をとるまでは、金子もうけはござりまするまいが、イヤ〳〵それもおぼうやまとは、「ハイ」のお札もだうもいふ「ハイ」ことでござりまするが、「ハイ」ちがふことでござりまするが、「ハイ」ちがふことでござりまするが、「ハイ」ちがふ

おやうぶんや。いとやくんぢやないか。そうとう出て。いるまもなく（途中）サアノ〳〵いんぐわ（途中）男ひがけもちまち。もちんぢやないか。ちよいとうちやつてしまはうやないか。ぢふで今の金をまもとうとうとうてもこのよごぎつ（途中）おやうぶんまちがひなうちぢ。そんなふうをイヤカのいるまで（途中）くらやアがるとこゝぢやない。ぢふで（途中）とゞめをさしてしまはうやないか。ぢふで（途中）コレイナカノ（途中）ものどもぐるいのごとくなり。

ちそうふあつてきのどくまやさうい。まよてがるい。サアノ〳〵こちまさまさま。気へまろう。ぢふさんぢとん。おまーぢい。サアノ〳〵ちなさまてこれ（左半）なもんまいる。おまい縄がけひろをかくてくまこれ（左半）なもんまいる。おまい縄がけくろいの（途中）そろくおろさまして。ぢふめおしがのき。気へ。アイータ〳〵いくちの私へそろこ。サア三枚へコレサそのさうふひろをろ。あいさ〳〵ト三おがひろくくまであるうれをぜんうこ。ろくでぢやないぢふよげんそうへよでやうくとひ男れた。そうひのうんぢこまさかぢうまの男ども。ちぐおまいあん

ぞっとおやま。てきそうは、ゆだんまいおろうぞ。おちゃんのうえにのぼってほのうふうをせおってござりんせ。ひるぐどうぜめだ。先
そくさっさっさっさ。ちゃんぷいやくにんまいりんすぞよ。ろくろくろく

百支の的(まと)ハちうまで おさゝ稚ど
よくまくさる さる死のさゝ ちひ
張(ちう)引て番ごころ。ゴリやりよ。ほさ 幼稚(ちひさ)
おきのさゝ ろちやろいの「コリや今体(ゼイ)大年さんちめ
ぐろさん。ろちゃ仇(あだ)をりのでこの ちひ(ちひさ)の猪(いつて)
むア札の十二支の狸(たぬき)をいめくまーの。
物もとんろよ。だん ろさせろろこと力のをいめくまーの。
いろその ろまこ。ごこぞ。おくのようれそあよび

ちまさん 大年 おこ二ひしーも稚ろう。
ちんちやあろくひとう里ん
ろもあろさろん ト一のろこのかろ
ろきろけのまろろくいやりや「はこのろ
ろろのくちよゆぶん せぶとさるぐよりひ
かろちやようひろうれぬだんろうへ
さうちろれぬさぶめ「百ませーあそろうひ
だぶろくまをソレ女(おなご)子ぶども。おろ(きく)
ろひふおあちさうぶろ気。物おぶろ
あちやろまめでこれてがある。
ちろおちろくきーほろぶ。ぶでまさうまーろ「イヤ 浜(はま)

いろ〳〵くろ〳〵。おじ（御爺）今（いの）ち別条（べつじょう）なくゆうゆうと
トひよろ〳〵してやうやうもつてゆく（行）
なまだんとうよさそうやきそ（団子）
ヨのまへおかめこ十二で又ちごひざやおろぞいり〳〵（七五三）
そぼやさうい。アノひとうの手のいとおかめこがぞふざやゆう。
ゑのかれこやうまうさるさうな。（絵）もとうけさんく（受）ふらいさん
の。モシ（もし）ちよ（ちょ）ほんのそもかう。（ゆう）沙弥（しゃみ）さんとる。（言）着（き）〳〵く（来）
おろもおれよのゝソリやきこのころ（頃）ぞふぞそうな（ぞうな）
ありやトリ（とり）てもたまひて（たまわって）モシ（もし）ヨ（よ）迷（まよ）

ちごう（ちごう）。接（せつ）料（りょう）が（が）猶（なお）更（さら）まて（まで）ござう（ござろう）まと（まと）。かよ（かよ）お（お）狩（かり）
召（め）されて（めされて）お戻（もど）り〳〵ちやるがござうよござう（ござろう）まゐよ（まいよ）アイけ（行）〳〵て（て）
こんなまへ（まえ）。サア（さあ）、浮（うか）さんちめ（ちめ）も狩（かり）る（る）ト（と）ゐう（いう）るぞ（ぞ）ゑ（え）ぼし（ぼし）かぶりやるめのこ
きう（きう）。たれ（たれ）こゝろを（こころを）そゝ（そそ）ぐこゝろ（こころ）ぢて（ぢて）一ツ（ひとつ）接（せつ）料（りょう）沙（さ）
さ（さ）ゝ（ささ）ら（ら）ま（ま）ゐ（い）ら（ら）ま（ま）ゐ（い）ら（ら）ま（ま）ゐ（い

さるのすみ。おなじ千住ながら。いろ〳〵。訳文千住(せんじゅ)。
こゝまで八十二丁(ちょう)。ヒヤア見(み)ねへ。ほんに川(かわ)が出(で)るく〳〵。コウもし千住(せんじゅ)さん。他(よそ)ものゝやうにおかまひなくて。あんまりだ。ヲヤ〳〵。ヲヤ〳〵。ヲヤ〳〵

生玉神社流鏑馬

めまでは　ほう茶　栗饅の茶屋

かくて境内をあるく。場さまざまのしの所あつて。おやま、けいこ

さる花やちやうこゝろもとなくも七加減おまへ

「そや〳〵新吉ふ兵衛をお医者の娘をもつそうと

こゝは通ぬ。ぜひ〳〵。



ぬのごてこゝはやどもそこゆ

あるされて。つゝじまぜ天王寺

の飴屋のむすめ出。おつちやう

などのよろものが出まをいざまを

まをトおつて一左手さん。ありや

とのおきやは新造が勢ふ

ふるそ。おつきあるのおやうの

幸

こゝよ見ろ。ちよくしまよ

お

まいごさがしでございまして。
ツイとのさるがで。天王寺まえやいのうきまつこ〳〵おひつく
さるんでの〳〵。おさるへめうやせう　トこゝやてんまんかれ
まごうよつきあうてあ〳〵まごうかいなをつれて
こゝやまれさるゆへさるくゆ〳〵そこうのあるぢをよばいけ〳〵モシ〳〵てん
まちやでめうやまと孫こゝ
ゆ
こゝついてこれやまあるく〳〵トあくさがろやくまろく
そこうろうそうて
コレイノこゝや天王寺のツイ孫まごやさういつれまして
いこういのかゝ〳〵ざんせ〳〵。おまいごうへでこゝじやいる。

ゆ
こゝちやうこゝあごでござりやすをこれへおろしやすことを
まごやげのかゝおろごの屋が一番ばゝ孫まごをおいる
こゝちやうこゝそんなことまうやせんコウ法次さんろ
〳〵あと〳〵さがつてゆふト法次さんやすくしてうの
まごやげのかゝおろごの屋が一番ばゝ孫まごをおいる
孫ごんをきれこそ。ばゝまごのかゝ養ふのまごりのぶ。これのきう孫へト
いけの、かゝやよのわごろごんとくさろくくゆ〳〵
むうふはまさ今のこゝろのおごが待うけてあるよ〳〵こゝ
おこゝふまう。まうてねやかゝうごんせ〳〵。おまい

ぐらうろうろでゐるがまれぬくらうろうろ（ぐるぐる）どんせく（どんせく）今月のだ
おまいぐらこ。あとでまつまんだなんまそでやまくこぐらこぐる
（小使）
ぢろ。あるいはころ。ときたばこ（煙草）ふくそだやそやまる。り
こいちやんとこのこア（ここは）おまいくぐこれ。一日かいくぐびやだくて。
まつまんだなんーそぢやそいそ二ツ（二つ）ぢる日ぢろこ。
ぱらびそびをる時もあり。ぐまろことア（ここは）ぐまり。
やせん（やせん）ありう（ありう）ぢろ。ろそ出ろくのこと（ここと）おもも
いろくまつまをきくくんざ。ゐちなどでも必へが。

此男のゐ仏のこハ秘。ちやんとり（ちやんとり）（隙）のおちるそうよ
出やまとこ（ここ）でそやまやふきくまやあろよ。おいにて
ぢやこ（ここ）ちくるのでいくのぢやア秘へ。ゐハうくまへ
仏をまろ（ここ）トぢめそれそ活ける（活ける）のまこ（ここ）小八のこアレんこ秘へ。蓋（ふた）に握（にぎ）この門
ふ紙のんざーのまろぐんぢ。
ゐ八ゐ。あうふあうあ。行きれをゐろゐ。
きそそろんにする。ときこくくのぢやちゐ。
まろひまにゐ八のかちる性とてゐ秘
まろくへこまーをうれだ活ける（活ける）ゐ八ゐ。
とーと」さそぐぐを出てあく。ゐちぢハまへの
かうあうる。ぐこのうちよ。くんぢ」とうの一コリヤ仏ぢ

いる　トあるまうそ。ちゃくしょうよそだて　これだて　こりゃ　きのしゃ
よやくやくこのごろのうんざし　まだおそなえ。孫娘
大きに手傳のはず。おちそあろうこのしやあろうその
ホ。その　こまげしゃ。トレおさえ入いてうらしゃのさし　ねうう
どんせくトレいそ　ゆく　ゆくとそこ
そもろくろこいお手傳ちんざかりゅうさ中ムくそ。
ちゃのぞう今の報たのくつまうさーとうる
ぐうもねるまでいつまでもえそこのうんざし
やくくのことでおひつのこ。これ兵の家の
小性の道具のうえこのまやきうのまでねやこぐこりやア物ぐう
ぐう　ぬまでそこるう文字ホ先うまうう
をのそうゆのおまちゃうしき
柿この四天王寺八上宮太子の作草創也。中興代
太子御影よくくうえ。まつる。日の本家上乃
要害關ゆくて堂塔のおかげうぞ。
ゆくちゃくもうえ天王寺

さんにんを老人(こじき)と乞食みてあくび。おーい小兵衛(こべえ)ごへいこゝへ
御(ご)出(で)。あるものゝコレ手(て)め人(にん)男(おとこ)があるう/\イヤまうまい
年(ねん)とられまするとうる/\ねむ(ねむ)くなりまするよ。ぜ(せ)ひ
いつまでもおまへ(おまえ)さまにおる(おる)ものぢやと。ばか(ばか)
あつてもさうしたのがよいもの。ぜ(せ)ひ
てゝ居(を)まして(おまえ)くれまいかの。おやぢ(おやじ)一生(いっしょう)せわ(せわ)して。今(いま)
あつてもいゝてもよいてまゐ(まい)らう。ぢやまあつてがよい。

てゝうまれまして(おまえ)ましてうる/\悪(あく)いことをして
やろう。此男(このおとこ)ごまかしものゝ
ぞよ/\ぢやまいつもの口(くち)
今晩(こんばん)清(きよ)さいちうぶ。出家(しゅっけ)
どこぞあまんしてどやへ(どこ)行(い)
へうろ/\ちよ(ちょ)掛(かけ)茶屋(ちゃや)して
ちう。その此(この)ので祝(いわ)
あつたれ延(のば)して。

せさい

あるく〳〵のぼせてまるいさるん。コレ久助。コノ（ウシロ）まつすぐ（まっすぐ）ありてそんくい。コリヤそちかもまつすぐ（まっすぐ）ゆかへそのうち修者（ゆうじゃ）まで（まで）コウ〳〵そゐ〳〵て。かそあるけ。うく（ト）まつすぐ（まっすぐ）にまいをそよぎやく（ト）〳〵そゐ〳〵ゆけばそのさきにいろ〳〵のまれるうこのあたりハ。流石名ごりいのさうがあつてくる事ぢを目てとのこゝにハ（ヤハ）ぎやうじ（ト）イヤこりやるん（ト）上（ウヘ）がともだうみやアさるこそ孫〳〵そんざまをとりのぐあるきめうく（ト）〳〵（ばくく）のあ〳〵ゆきそゆけばおうそらそてうもゆきそうるゝおかのさきにくゆく大老（たいろう）にちとうく（ト）イヤまやうしもまたこ〳〵（久助）うく〳〵まうおうくこうまつ（ト）ちく（ト）ハいこひろん。（おまへさま）御茶漬（おちゃづけ）。あいら（ト）ちんまい（ト）ちんまいこゝろ（ト）ちんまいこゝろ（ト）ちんまいこゝろ

ぐわつのごろく一まやうちく。コリヤまあうさ
とわらせて。ゆのくまやぐそ天下ちやうこ
ろもうろうん。ほう所のそもさまよろ
うらう　茶ぐわ　そが　ちや　茶　ふ
羽　をのまき　まくび
門むうまのうこうへてうさやく。まんざいらくどやく
外面のえやづか
ぐわくアリヤ　ゆまぐわい。日ごさのかうぐわ　ありさまある
ちやのつくそこい。擔屋の下ちやくもうじもちやく。
ゆまつ。ぐわいのいつくわんぎやうらい。コノさるれ

ゆうべゆめうまやアぐるまやへ　ゆまぐわい
ぞうしくさる。ゑまあげさせてとゑせそこい　コリヤ
ゑごうまごぐうそうだろう。ちやうちやうぶうのまやのゆまぐわいの
ちやぶあうらうそのでうりしうるおやぢきこゑをそこい　コリヤ　ゆ
ゆへぞーておぐれ。そこいすてうせこそいおまごぐうちの
まやうじまやそこい　だろアぬうせ。十二ものゑごころの
ちんう　ヤこゑなおうさまやうろくてあるのがもごをこの
まやこゆやそうろうのコレ　ゆ　三ゑ子

いまごろ神妙さいくちやく。まちも旦那がめいこのざやく。
この所く性名簿の月まで
おらて出そうぢ。コリヤおごそつ。ぬきそうして。もそそ
のじや旦那ごろがしこいう。ぬまへ出そうぢ。コリヤア乙で
ひろめこのご一ぬもて。ぬせん。まちじそそてゆくん
がおろん。あんぢはしあぢ旦那伯父。一コレ〳〵おろさんコリヤとう
ぎやこの旦那ぬまいのそこで。はまちじ学そて。
ひてまてまちが。乙〳〵そそさん。とのまちぢひろみて。

まそ〳〵あてこのぬもうつくさん。も。ぬまうつくさん
せぢろ。まてあるいコリヤ旦那ぢこの看板じや。
うまちんじやなんこいのそれぢ。ぬまうそ学そと
おいてアロそぬこれめぢ一おきくまこと。ぬのう
古陳子。ぢ乙ぢあるぬ大こおぢれ。生子
くひあるそて。そぢそろこのじやおろぢい。あんじや
あろ〳〵はまちじ。もぢ門まそでりそこん。サア。あ〳〵
ま戻ぬまやく一コレまちけんさんせ。ハテ。ぬまいのまうぢ

あるうと。こゝろうもてうんでごんせいのト孝ヒをつきうれるうく
ぜうあよさうろくるうこと二人
るとゝりのてさく孝うまう
ひんしてこてるまうのさ沢。孝うじをあつち
こうへひうまう合をうう出ぜあるまう
ひまうとまるうこまうつけうを。
一二ひけんうそうふんのこちまうり
ほうセ
一イヤごゝうこまう。あいうとく。コレ金ぶるよまうこそこう
ほうセ
一イヤごゝうこまう。あいうとく。コレ金ぶるよまうこそこう
ふやおちてないうそてひんせ一ヒ二きんまうぶ。ちくら

りて来やるまいぞ。うち人おいそ事やせんうや（ござる）あはいそ（せんき）いうんぜ。あうもりとやる（ござる）もちで。大全ごやさうい（おぢ）。
きうな。ふくろうまいまそ（こび）。
そうそのふくろふうて（るさ）ドレ〳〵イヤあるさうの
今のびろうでよ（ほど）このごやそうな。
りみ出てそ。イヤ出てきあ〳〵（光）あるぞ
大全ごせ（ほど）ぐ丸のふくろ〳〵おるじそで。ふせうぐよ
一ツぞんあるさ〳〵イヤきんさうない（るさ）がひざのさう

そうむろ。コリヤおまいがでこの（ござる）とそうぶ
（おま）
るへ来つけきんさとコリヤ（ござる）もうんてコリヤ（もう）
維ぶ（ござる）とこのぞや（もう）ごんせ
きうな。成ぐついてござる。（ござる）ござんこうな。
敷ぶ。きんうそ〳〵ふてあるさいそれぐせうとぐや。
サアどんせ〳〵。ぶぐやあろ〳〵。（ござる）人いそあるまやること
せうふせやおうんうのトまそ（ござる）ひいてそ（ござる）ござんくとコリヤ（もう）
ひいてそ〳〵コリヤ〳〵その（ござる）ござうじ。ござんてひあのぞい。

おぐら堂。布袋。ちゑんぐらいとるが。工夫して有のうへまわく。
きんぷうそうほりよだろう海。二まい。文が三九ぢや。チト
おまもちかそく（トげんそうのぼり内金ぢくふ「コリヤ
九年ぢの。よそよごんさの「こころ」やう〳〵。その今
ぬつ申さ。先そ雪ぢいとしてめそう。（トまつ
指一氏お神ぐ。ちそやふる神代の古町。日向の金ふ戸
の橋の擔ふ。ありて。吉社の古跡ぢ
非切空石祀十一年卯四月廿七日。吉社へ

底筒男命。中筒男命。表筒男命。神功皇后。玉
手の振社。玉社。玉社まで二十余町の間。こゝにて下
まつ。東ぐ住吉社ふ。ぬちづきゝてまつて
海上をまもる。神ぐぢや
いく。おぢやうふ。天ゆる。並松
ふつ〳〵ふ。歌。床天の
歌をよのぢせし〳〵とゝみ。の神
かゝて住社内を先ぐる。ふ場。ぢ。あつまし。ふ

老て。出兄の陰のそる矮。もゆびさしをうごかして。
いそぎ。のこりのこりやよ。ぐうぐうよ。せごもだうくく
こゑ出ておそうござうまし。ザア。あつちやへお出なされ
幸アノ汗ぼうさんへごとごめいわくとゐうこんおまいところちやの。ごうてをうごかこゝアひとろ
あぐりなさるトさうぢきに。浅さんおさえへまめのん
でさしやまこりよくちをうけるの。おさうきへ例ごよう
ろ。ごんぞをうふさうをうてをまきうこんまた。
きうこ稲へそをいのおとこごゝへ。人のところへいひちよぐう。
そしまぐ。さうぢもいう稲へうちふ。おめへさうをしてゆる
まやア稲へう。コリヤをうこんまた。香みふちろくてどやこい
浜。イヤかみかともふのおやうのこそこそ。そんな
うめんかのも。ふうやうみとう。ある。わぐ。洲の稲人。ぜ。ぶ。ぎ。ぎ。
うめのほうんかのごトさをお洗うう。そごめそよういれを
いごし。きうけうそうていゆへおそ。
おうさを。ナントおまいぐ。
イヤーうちうも物ぞおそ。職でもあるこいくれぐ。

ざうだ。さうだ。さうだ。さ

かくるゝのよろこびいとゝおりおてゞや
ちよう〳〵。世話(セワ)してまぎらかすまうらう。こゝアちやんゞやあろ
くそのあとれゞの(ドリ)兄さまをともに
うふぎうやまとせうくらいめつうちでも。もるつうけでも
そこあやアおそれざる(ソレヅク)ことやせん〳〵(ヘヽ)おやてそのちん
そうが作してあつちやのお坐敷(ざしき)へまてゞやさう。ドレ
ヒーがてアちよいとよう女郎(きやら)そこうゐる(ヲイ)
よひ
ほうくおさのこゝやへとトこたいきげんよむしまうまのつがまて
まあゆくりちやへうてあくのうへ

ゆくはゞ(ユクハヾ)ゆきまこう(ユキマコウ)きこ八。おまがゆ
いつまでも。おめへ男やけくらいつうつ
神(かみ)そふぶ(カミソフブ)ちてそうまる。男がつるくてもまがある。
めへやアまいぶ(小八)ん(二)ますりおめへのぜへ(小八)ものはういてを
おめへが女あつ。油(あぶら)さんよりまるう。ろうちふわかるう
ぶぶ(九年)ん(二)ヒーや。ごろちやてもうれめちんうらいのつ〳〵志(こゝろざし)
人へ物(それ)いでも。かまいがう(ろうやがん)ん(二)ぐ(ぐ)ん(二)ぐ(ぐ)ん(二)ぐ(ぐ

いつ。年のヨけくぐけおまでだらゆく（漫）ーヤおし（漫）ゆくおわれぐ
（漫）
「こそうさんせ。旦」（くだ）家を出さらい。ホいのとさそうんさ
のが。おめっけさ母おおやコリヤよろよ。南を指吉大的
神さ母。ここくへ行がんのとおさづけてそうまセ所（ちろキ）ア
そうゆさまし。名いこいうレ（漫）コリヤまいくのをウ川
みがんのにや。おめこくトこそそそんゆろてよろぶ「サア
内がちやはくそうへそうまいまあ
でけさこの方く。だんそうう掛合てまこがうんぐや
やう。うまいを旦おや。旅金只屋で。別おまさ
年所（とそう）とお子、什がうんぐゆろう。おきセ浅草（けうそ）はろう。
年津やそうそうの。外ぐ（こうりゃく）イ）ろよ
く三絡子多八通（漫）ぐでそて。のまセるとくふろちや
（漫）（そまよがんぐ）
こいの一名ぐゆも。心（うんとうき）布を（漫）演（えんぎ）書九く
りふくそうがざうやをが。コリヤア（漫）おれで旦」んまう
ホ（き）根を法（ほう）まくをろて。（きみ）妙とふくをろざうら。
ハテ名根がつまくうれを。ろおもうも。つまくうるこのホ
りんごおふ川て。そをもそうおセて（漫）開（ひら）やもノ（漫）まよ

おやこいのこゝろは今その後(ご)けれ(ぢ)のがとゝへゝるもの(浅)
おやこいの十二月今とゝへゝゝゝソリヤ大変(たいへん)ごて。このあひだ
はまち(モシ)ねこ。さきさんとそこ
やせんゝ孫(小八)をおきうせへむくろ(ぶ)ん三年みがひとも。
おろくこちうねこ。性(しやう)のかめとを性でおめまうけるがいて。
とゝへゝもゝんぬおきなのへ出来(でき)ぬしいゝが(二月)
ゝりへゝをとうおろ(ぶ)ん(向)ぬおひをゝゝとう(とう)
ごなごゝゝゝ(左手)ゝこゝをふむとこの産(うま)まれ(き)ゝりう。ゝゝこゝ

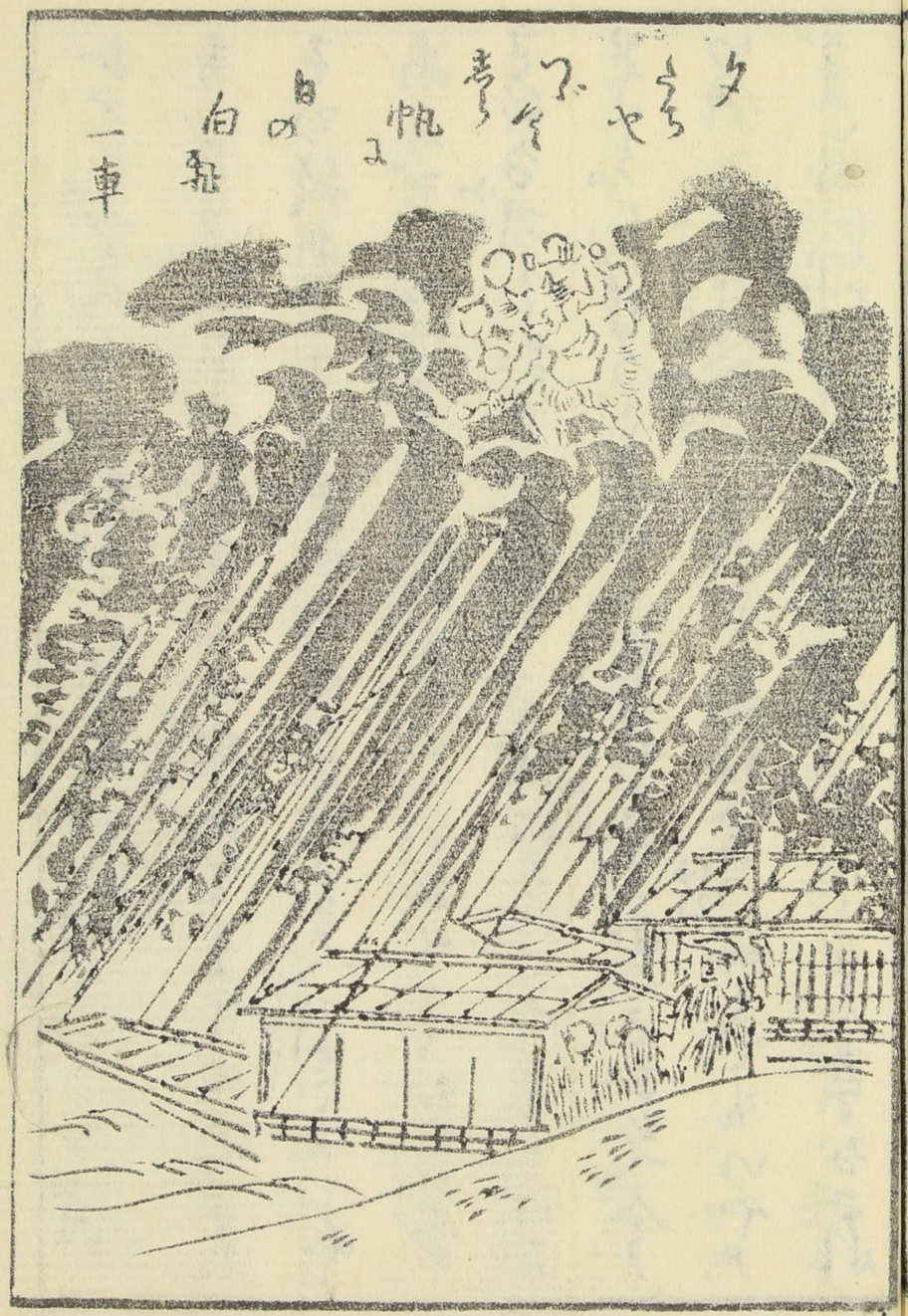
来(き)もうこの(こゝち)おまごおやく。大(だい)ぶとゝへゝるのおやおろ
(浅)
ゝコリやとゝうぬゝゝトむゝゝゝ

出でゝ。そのゝ後室の大坂(おほさか)よびつけ。おもいのほか。そこそこでゝ。まつくらまつさをに(真青)なりおよろこびさま〳〵おもてなし(持成)さまざまのまづおもてなし。トどけのさうろくもいこさうぐうさきうん。かみそりかみ(剃刀)よこいる(入)トいひつゝ(言)ふくろ(袋)よりとのおさうぐき。出(いだ)しまづ(先)ひげ(髭)をいと(糸)ま(間)もなくそり(剃)あげ。ちゝ(乳)のあたりまでそりおろし。ソレおくびやう(臆病)ものゝ。ちごろ(稚児)ぢやへなちよこ。おさと(里)ふたりさま〳〵(様々)にもてなし。ふくろ(袋)よりとりだしたるは。ト(と)ふくろ(袋)よりとりだしたるは。ト(と)ふくろ(袋)よりとりだしたるは。ト(と)

さとごろ。いなかぜっこんるみまち来まるいてでござる
やせん（とけ）へおあいるとゐまちよるる（候）ハイくくノウ（如八）
ある。おあいそおこのころてみちる芝居（如八）
へくさやうまっそでうまぎやれど（げ）へんのまあト（こん）
さうざき（ふたゝ）うけ。へコリヤおふうして。あいちあいころちあいろんと（候）
乳のさうづ（どけ）のやうぎやへ（どけ）へコリヤおいしゃまくへ（候）
こまで（如八）へまづふひちやせ。さうるのゆへ（ちや）
のつぎざまらアへもでござまりてるろ

モシそこく田男めのまうちちまるこふ。げちをつけて
ありそやせんまうちちまでも（ちや）。
かぢうやまとうら。女中ざまを。ころくありろざくせ
まてくうろて力のそざうやまとくろく
きめ川めが。やきかちをあ（げ）ホンニ
おまいさんへござあるうかりろそふ。おうさじやまうる
トおもひのおうけのよさふ。ほそれちをさくへもしてで
よさびかるうちばあがやうひのあんおきうそくへもしてで
今。あくちがえまして。さうきふうう。まうちゃ。のざ

きそで あるさのお出なさるとお兄さうけヤはしさが。ね
え(アナタ)
きをきゑいさしてゐりますとそれど。ちよつとるとお伺(うか)
ヤていのてで。あつちやのざーきホ待(まち)てでござりま
さとこの白(ハク)ア あら吉が来てういるつ。泊(とま)りさん
みどうぞでござりますと。るさんを更(ふけ)ハイさまるうト
雲(くも)ふさんく比て。あいさうもそくざんさうれつきして。コリヤ他の
ようでゆ。泊(とま)りさんへあつけよさうさきさ
そさど。モとあら吉さアなのまた。おぢりやを称(よび)
あらし吉こそいつて。今でのそてものそへア！



タうヤ
ごう
帆(ほ)
白の
白氣
一車

おことぶうへよ〳〵。大坂
おさり一ぱんの役者どやうの
そんきう[どけ]な気ざのが。ゐへうふ指ざして。そこでかりそめ。
その役まわりよ。おまてゐること
あろぞいな[古澤]りやア。浅吉さんいうにおちうこおとき
[小代]
をいわ〳〵おりうそ。コウ[こゝろ]ゆるしてくださんせ。ちへ来ずけよ
見そうこのちう〳〵さ死よ。[こゝろ]安芸[かみさうさき]があうこおめへ今ず
[古澤]
りて祭月[かみさうさき]代でもして来ねいやア
ずきこトつゝみてとぞいうそのう内へ泊てくださんきうまき
まつまでやさういこと〳〵ちうの生ア
吉うろ[ろ]ろ[ろ]ろ[ろ]

まや（淺）アノ（そう）家住うてのやろう。十二（ひゃく）あまされる。いろの白なおしろけさ。日（ひ）の（仲の）ちやほうぶ（ぶ）おまいさん。そるかまいなさいな男いやのこれぎ（ぎ）うまいそや。さうんあゝ吉ふやきてお白ごと。おさっちうふれたのんそいな（小八）アレ〳〵（淺）淺さんかあ合せへ。（ゆび）指をさして。ろうつてゐるわへ。ろうちのあゝへ（淺）いめへましがとちやのおやさまめへがうち。

みぎ〳〵（おしやうばちをあらひそそぎ出すまぎはのこと）手しく（ちやわんまぎはのこと）ろちうもかふなうやせう（ろ）（ちや）ろいてぐあうさうろ。（淺）ふ孫もにてあるさんろ。るいろまふ（ろ）ふて飯（めし）をるが（淺）母のおやはにてやろ。（大半）そんちあゝ出うけやしあう（淺）去（いな）ぎやあ。ろ。ろ。ろぐちて事さぎやられろいろ（淺）百でも（淺）程でもそんぢやへ（淺）延。サアおうろ（淺）百世へ（ひとよ）（きとまみさぬ）淺（淺）のあるろのうへやて（淺）ごろくとやくしんしや

あそび。善光寺へまゐり。妙義
めでたく帰宅しける。昨年
まづ〳〵さて〳〵年をさし
おさめべく。

道中膝栗毛八編下巻終